

政策コメンテーター報告(第4回)(意見照会期間:2015年8月18日～8月28日):加藤 久和 明治大学政治経済学部教授

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	<p>2015年8月下旬から9月上旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年5月下旬から6月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているをご参照ください。</p>		
デフレ脱却・経済再生を確実にするための取組			
2 - 1	<p>(別紙5)の1.(1)のとおり、経済財政諮問会議ではデフレからの脱却、経済の好循環の拡大に向けた取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入ください。</p>	-	<p>中国を発信源とする世界同時株安に伴う当面の景気減速が心配される。しかしそのための財政出動等の景気下支えの試みは慎重になるべきであろう。第一に、わが国の実体経済自体はそれほど悪化しているとは考えられず、今回のショックは一過性のものであると考える。第二に、平成27年度当初予算で達成が見込まれる財政収支改善目標について、補正等によりこれが達成できなくなる場合、国債等の信認が低下する懸念がぬくえないと考える。以上の点を考慮すると、経済の好循環への取り組みは、アベノミクスによる成長戦略の着実な遂行が引き続き重要であると考えます。</p>
2 - 2	<p>また、(別紙5)の1.(2)のとおり、経済財政諮問会議では我が国経済の潜在的な成長力の強化について取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入をお願いいたします。</p>	-	<p>潜在的な成長力の強化については、労働力の確保と生産性の上昇につきます。女性活躍が課題となっているものの、女性の労働参加が進んでいるとはいえ、かつ女性の雇用者の半数以上が非正規であるという状況からみて、いかに質の高い女性労働力を生み出すかが焦点であろう。その一方、出生率はなおも低迷しており、両立支援策のさらなる拡充が求められる。諸外国の経験をもみても現物給付のほうが保育支援などの現金給付によるよりも出生率向上に寄与しており、それは言い換えれば女性の活躍支援が中期的にも長期的にも重要なキーポイントになっているということである。</p>